

求めたのは、リアリティ。  
Sensitive & Advanced

DENON

その年輪が、またひとつ自然の響きに近づいた。



時間軸領域の情報量拡張  
新開発“Advanced AL24 Processing”搭載。

CD/SUPER AUDIO CD PLAYER

DCD-QSA1

希望小売価格 525,000円 (税抜 500,000円)



ADVANCED AL24 PROCESSING



- デジタルディスク再生のコア・テクノロジー、オリジナル・ドライブメカ
- 高精度水晶発振子を搭載し、卓越したクロックデザインによりジッター、ノイズを抑制
- デジタル/アナログ回路を電源から出力端子まで徹底分離
- 多層構造による防振構造で、音質劣化をまねく不要振動をシャットアウト
- デジタル/アナログを独立させた3重フローティングトランス
- 高品位D/Aコンバーターとしても動作可能なデジタル入出力端子を装備

マルチチャンネル時代に問われるオーディオの真価。  
力強さと繊細さのパワフルなスピーカードライブ能力を両立。

- UHC-MOS Single Push-Pullによるハイパワー120W+120W (8Ω)、  
【240W+240W (4Ω)】
- 高品位フラットアンプを採用。贅沢な回路構成でセパレートアンプ並みのクオリティ
- 繊細かつ力強いUHC-MOSをサポートする大型トイダルトランス
- 砂型鋳物と複合防振材による徹底した防振構造を採用したトランスケース&  
コンデンサーホルダー
- 高品位ソースからの直接再生が可能なパワーアンプダイレクト端子装備
- 高性能フォノイコライザー搭載



INTEGRATED AMPLIFIER

PMA-QSA11

希望小売価格 378,000円 (税抜 360,000円)

株式会社 **デノン** denon.jp

○DENONホームシアター/視聴ご予約受付中  
詳しくは・・・【東京】03-6731-5534 / 【大阪】06-6263-2921

○資料請求は、住所・氏名・年齢・職業・電話番号と品名をご記入のうえ、  
〒104-0033 東京都中央区新川1-21-2 茅場町タワー 14F 株式会社デノン 宣伝部 SS係へ。



9784880731179

雑誌コード65482-19

ISBN4-88073-117-X C9473 ¥2190E

Ⓜ2005年4月

©STEREO SOUND Publishing Inc. 2005 Printed in Japan



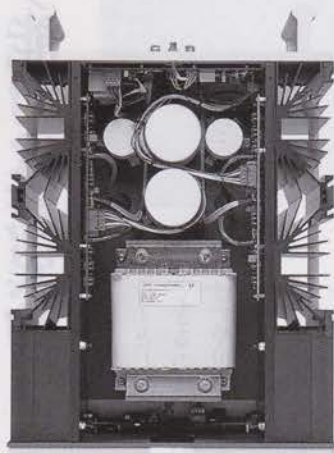
1929473021901

定価二、三〇〇円 本体二、一九〇円

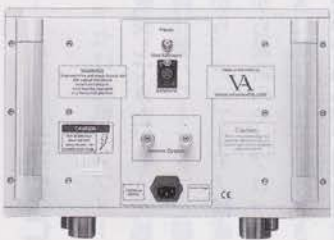
デンマークからのニューカマー、ピタス・オーディオはハンス・オーレ・ピタス氏によって1997年に設立された新進ブランド。当初は他社製品のモディファイを手掛けていたが、その中でバッテリー駆動方式が音質改善に多大なアドバンテージを持つことを確信したという。そして、バッテリー駆動方式のメリットを最大限に発揮させるためには、それにふさわしい回路が必要になると考え、アンプの開発を始めたのだという。

その後、同社はストックホルム2003にラインアンプRL100、フォノイコライザーアンプRP100、モノラル・パワーアンプSM100を出展、同年フランクフルトのハイエンド2003において世界デビューを果たしたのだ。もちろん、前段機器にはバッテリー駆動方式が採用されていた。実を言えば、私は2004年のウィンターCESで同ブランドの製品を見かけ、その造りの良さやサウンドに接し、日本への輸入を期待したのだが、現地の価格を考えると日本での展開は難しいと自分なりに結論を出した。しかし輸入元の努力により現地価格に近いプライスが実現、輸入が開始されたのは悦ばしいことだ。今回、試聴の機会を得たのは輸入されたばかりの大型モノブロック・パワーアンプSM100で、これはAC電源によるもの。本機はフルバランス回路を採用しA級、AB級という2種類の動作が選択可能な出力段から、100Wというパワーを得ている。また非磁性体のアルミをふんだんに投入した堅牢なシャーシを採用するなど、高品位なパーツで多く採用し、プリント基板も充分な厚みを確認し伝達ロスを防ぐとともに高い耐振性を確保している。

(小林)



肉厚のアルミ製トップカバーをはずす。大きな筐体の内部のほとんどを占めるのが電源部。前方中央に配置された電源トランスは、ピタス・オーディオで設計されたもので、開発に3~4年かかっているという。コアには漏磁、電圧降下の少ないとされるUIコアを用いている。両脇のヒートシンク直近に立て向きに配置されているのが増幅基板で、本機はフロントパネルから、A級動作とAB級動作を切り替えることが可能だ。



左右にキャリングハンドルをあしらったリアパネル。入力端子はアンバランス、バランスを各1系統装備し、スピーカー端子も1系統装備する。なお、入力の切り替えはフロントパネルのボタンで行なう仕組み。



PROFILE

シユな欧州製アンプがもつバランス感覚と、小音量時の美しい響きを身につけているのが素晴らしい。逆に相当なハイパワーで鳴らしても、決して荒れた響きを出さず、リスターを包み込むような余裕と深みを感じさせるのは、生の音を聴くのと同じ感覚と感動といえるかもしれない。

ただ高いだけの大型アンプなど要らないと常々思っている僕だが、本機はそれらとは違う本物の実力を秘めている。唯一の欠点は高価な事だが、それも納得できてしまう造りと性能だ。

ビタス・オーディオ  
SM100

¥5,229,000(ペア・税込)

●出力:100W(8Ω)、200W(4Ω)、400W(2Ω)、800W(1Ω)  
●入力感度/インピーダンス:1.3V/10kΩ(アンバランス)、1.3V/300Ω(バランス) ●寸法/重量:W435×H310×D610mm/74kg ●備考:A級、AB級出力切り替え可能 ●問合せ先:株/ホビームーン ☎03(5433)7080

高いドライブ能力と音色の美しさを両立。本物の実力を秘める——小林貢

片chで74kgは僕のオーディオ人生で、もっとも重量級のアンプだが、パワー感を前面に押し出すような品性の低いサウンドでないのが欧州生まれらしい。では、パワーがないのかというとスベックは100Wだが、室内で使用する限りパワー不足を嘆くケースはまず有り得ないと思われる、十分なパワーを持つ。むしろ余りに質の高い音のため音量を上げすぎスピーカーを破損するのでは、と思えるほど音楽を気持ち良く再生する。この辺りは電源およびアンプ回路の設計の確かさと投入部品の質の高さを物語る部分だ。

重量級だけにボトムエンドに伸びがあり、情報量、解像度は格段に高い。CDに記録されているにもかかわらず、リファレンス機で引き出し得なかった帯域をクリアーに再生し、スピーカーのf0が下がり、かつ感度も高まったように軽々とベースの超低音を再現してしまふ。その音には重苦しさは一切つきまとう。高感度システムのような過渡特性の良さが感じられる。中域から高域にかけてもナチュラルかつピュアな響きで、まるで小出力A級アンプ、もしくはシングルアンプのような音色だ。

凡庸な大型アンプの如く、パワーに頼った大味なサウンドではなく、スタイリッ